

2019年 普通救急救命講習 生徒会活動報告書

日 時：12月5日(木)10:00~12:00

活動場所：本校サブアリーナ

参加者：2年 三浦彩夏 1年 三浦果穂 松本葵

報告者：生徒会1年 松本 葵 三浦果穂

補筆 武田 校正 荒川 伊藤



◆ 活動の理由と目的

- ①. 防災の心掛けとして、適切な処置を知り、実行できることを目指す
- ②. 学んだ内容を広く伝え、少しでも拡散させ、救急時に対応できる状況づくりに参加する
- ③. 生徒会本部の広報活動として

◆ 活動内容

私たちは、まず始めにパワーポイントのスライドによって「心肺蘇生法」について説明を受けました。

「心肺蘇生法」とは「胸骨圧迫」と「人工呼吸」による方法のことです。説明を受けた後、各グループに分かれて人形を使い、実習に入りました。次にAEDの使用法の説明を受けたのち、同様に実習となりました。このAEDがしっかり使えるようにと、校内にあるAEDの位置をみんなで確認しました。そして最後に実際にあった事故の動画を見ました。動画の内容は、応急処置をしていれば助かった

事例や、実際に応急処置をして助かった事例のビデオを見ました。今年も、私たち生徒会役員は、その様子をカメラとビデオで記録をしました。

◆ まとめと感想

私は、こうした普通救命講習は、これからの人生に必要な技術だと思い参加しました。その理由は、身近の人が倒れたときに何も出来ずにいるか、何か出来ることをするのかの、どちらがいいかを考えたときに、少しでも何か出来るほうがいいのに決まっていると思ったからです。講習では、救急車を呼んでから到着するまでに8分かかると聞きました。その8分間に

「心肺蘇生法」をする事で、生存確率が上がるということを知ることができました。私は撮影を担当したので、実際に「心肺蘇生法」を実習した訳ではありません。しかし、しっかりと見聞きしたので、覚えることができたと思います。実習参加はできませんでしたが、良い経験になりました。



記:生徒会 1年 松本葵

今回の講習は、体験側ではなく撮影担当として参加しました。実際に実習をしなかったので、「心肺蘇生法」がどれほど大変で、詳しいコツなどはわかりませんでした。しかし、お互いに声掛けをして連携を大切にしないといけないこと、人の命は1分1秒で生死が関わることがわかりました。講習の最後には実際にあった、「心肺蘇生法」に関する事件のビデオを見ました。以前、「日赤衣笠分団祭り」に参加した際、「心肺蘇生法」と「救急手当の方法」を学びましたが、そのとき以上に人の命のはかなさや、その場に出くわした際に自分は何ができるのかと改めて考えさせられました。今回は、実際に参加することはできませんでしたが、次回は自分のためにも体験者として参加していきたいです。

記:生徒会 1年 三浦果穂

